



差別克服の道筋を求めて

「マイナスイメージの刷り込み」

『同和問題』の今日的課題は、部落差別をすることは間違っていることを理解しているのに、なぜ部落差別はなくならないのか、なぜ、どのようにして部落差別は温存・助長されているのかということを確認して解決することです。

そこで、安岐地区人権学習会では、今年度のテーマを『マイナスイメージの刷り込み』にしました。差別がなくならない原因に迫ることで、偏見や差別



▲安岐西本地区の学習会

は、繰り返し返されているマイナスイメージの刷り込みが原因の一つになっていることを知ってもらい、差別は差別する側の問題であり、『同和問題』の解決は部落外の私達の課題であることに気づいてもらいたいというのが理由でした。

具体的には、まず、人権啓発ビデオ『今でも部落差別はあるのですか』のドラマ部の問題提起を視聴することで、偏見や差別がどのようにして再生産され、温存・助長されているかということを確認してもらいました。そして、参加者みんなで話し合い学び合うことで、部落差別をなくすことは、部落外の私達の課題であるということを確認していただくことにしました。

さらに、人権啓発ビデオの解説部を視聴することで、マイナスイメージの刷り込みをなくし、部落差別を克服するために自分ができることは何か、また、家族・職場・地域で取り組めることはどんなこと

高校生

人権コンサート

3月4日(水)、大分県立国東高等学校で第7回高校生人権コンサートが開催されました。

生徒自身によるいじめや差別に関する作文・詩の朗読、また北九州市から人権バンド「願児我楽夢(がんにじがらめ)」の皆さんを招き、人権について深く考える学習会が行われました。

があるかについても考え、話し合ってもらいました。

地区人権学習会を振り返って差別克服の道筋を考えてみると、『同和問題』への取り組みに当たっては、偏見や差別の誤りを科学的に正しく認識し、理解することが不可欠であると改めて反省しています。

部落の歴史や解放へのあゆみについて、正しい認識と理解をいっそう深めるための学習会がこれから大切だと考えています。

文責・教育委員会

安岐分室 永松

《生徒の感想(抜粋)》

差別、絶対に次の世代には残したくない2文字です。
少しの思いやりから始めたいです。
人権の事を考え、自分を見つめ直す良い時間となりました。
皆が平等に幸せを感じて生きていける、そんな世の中にしていきたいです。
差別などについてももっとよく考え直そうと思いました。



お知らせ

同和問題学習会(隣保館)

4月16日(木) 午後2時～4時

問い合わせ

国東市隣保館

☎ 0978-68-1722